

平成24年度 事務事業評価シート（平成23年度実績分）

事務事業名	水源かん養林の取得、管理及び整備		部課コード	2402	予算事業科目		事	単	区分	継続
所管部署	担当部局	高知市水道局	部長名(2次評価者)	橋詰 辰男	個別事務	一部	-			
	担当部署	総務課	所属長名(1次評価者)	澤田 和彦			-			
	電話番号	088-821-9209	E-mail	kc-240200@city.kochi.lg.jp			-			

1 事業の位置付け

予算科目(平成24年度)		高知市総合計画・実施計画施策体系での位置付け								
会計	水道事業会計	大綱	05	まちの環	政策基本方針	本市は、地理的な要因や急速な都市化の進展により、しばしば浸水や山・崖崩れなどの災害を経験してきました。また、次の南海地震は、海溝型地震の長期評価(2010(平成22)年1月1日算定基準)において、今後10年間に10%から20%の確率で、また、今後30年間に60%程度の確率で発生すると予測されています。安全は都市の基礎的な条件であり、次の南海地震への備えをはじめ、合併により広がった市域の防災対策や消防・救急体制の強化を進めます。また、市営住宅の整備や交通安全対策、水道水の安定供給を図るなど、市民が安心して暮らせる快適な都市の実現をめざします。				
款	41 資本的支出	政策	04	安全安心の都市空間整備						
項	02 増補改良工事費	施策	06	水道ライフラインの強化						
目	03 水源林用地取得費	区分	06	水源地域対策事業						

2 事業の根拠・性格

法律・政令・省令		法定受託事務
県条例・規則・要綱等		
市条例・規則・要綱等		
その他(計画、覚書等)	高知市水道事業基本計画2007(基本施策4-2健全な水環境系の構築)	

3 事業の目的・内容等

対象	誰(何)を対象に	水道使用者			
意図	どのような状態にしていくのか	水源かん養機能を保全し、水道水の安定供給を図る。			
手段	事業実施体制等	取得は直営(水道局総務課)、管理及び整備業務は業者委託			
		事業開始年度 昭和55年度 事業終了年度 未定			
活動内容	どのような事業活動を行うのか	水源上流域の自然林(雑木林)の購入、保有する水源かん養林の管理(巡視等)及び整備(整理伐採) ※購入は上記予算科目であるが、管理及び整備は別科目(21水道事業費用 01営業費用 01原水及び浄水費)			
成果指標	事業目的の成果を測る指標		指標設定の考え方		
	A	面積	水源かん養林の取得面積		
	B	管理経費	水源かん養林の管理経費		
	C	整備経費	水源かん養林の整備経費		

4 事業の実績等

			21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(計画)	備考欄	
成果指標	A	面積	目標 150,000	150,000	140,000	80,000	・A取得面積 単位：㎡ ・B管理経費 単位：千円 ・C整備経費 単位：千円	
		実績	50,657	0	0			
	B	管理経費	目標 1,289	765	765	765		
		実績	593	593	593			
	C	整備経費	目標 3,885	3,885	5,066	3,822		
		実績	3,467	4,347	3,675			
投入コスト	① 事業費	決算額 (千円)	6,954	4,940	4,268	9,587	・水源かん養林取得事業費、管理経費及び整備経費 決算額合計	
		財源内訳	国費 (千円)					
			県費 (千円)					
			市債 (千円)					
			その他 (千円)					
			一般財源 (千円)	6,954	4,940	4,268		9,587
	翌年度への繰越額 (千円)							
	② 概算人件費等	人件費等 (千円)	2,220	2,160	2,160	2,220		
		正規職員 (千円)	2,220	2,160	2,160	2,220		
		その他 (千円)						
		人役数 (人)	0.30	0.30	0.30	0.30		
		正規職員 (人)	0.30	0.30	0.30	0.30		
		その他 (人)						
総コスト= ① + ② (千円)		9,174	7,100	6,428	11,807			
市民1人当たりコスト (円)		27	21	19		総コスト/年度末人口		
年度末住民基本台帳人数 (人)		339,714	339,130	337,875				

5 成果指標で表せない事業成果・市民満足度・その他課題点等

平成23年度末で約220haを取得しているが、対象地域全体から見れば、ごくわずかなものでしかない。
 本事業は効果の見えにくい事業であり、水源かん養林の取得については費用対効果、また、取得により管理や整備に対する費用の増加が見込まれることを勘案し、事業のあり方について検討する。
 現在保有している水源かん養林については引き続き保有し、地元との交流や広報活動に活かしていきたい。

6 1次評価（所属長評価）

評価日（平成 24 年 9 月 13 日）

評価項目		評価基準	1次	平均点数	評価内容の説明
事業実施の必要性	① [施策体系等での位置付け] 事業の実施が市の総合計画・実施計画・市長マニフェスト等の目標達成に結びつくか、又は、事業の根拠等に結びつくか	A (5) 結びつく B (3) 一部結びつく C (1) あまり結びつかない D (0) 結びつかない	B	2.0	・本事業は、水源かん養機能の保全を行い、河川の自流量の安定を目指すものであり、ライフラインの強化に資するものである。 ・森林の保全等の環境に対する市民意識は高まっているが、森林面積比率の高い高知県で水道局が独自で森林の取得及び整備を行うことに対する市民ニーズは高くはないと思われる。
	② [市民ニーズの傾向] 事業の実施に対する市民のニーズ（需要量）の傾向はどうか	A (5) 非常に多い、急増している B (3) 横ばいである C (1) 少ない、減少している D (0) ほとんどない			
事業内容の有効性	③ [成果の達成状況] 事業の成果指標の達成状況は順調か	A (5) 十分に達成している B (3) 概ね達成している C (1) あまり順調ではない D (0) 十分な成果を望めない	B	2.0	
	④ [事業の手法・活動内容] 事業成果の向上のための手法・活動内容の妥当性	A (5) 妥当である B (3) 概ね妥当である C (1) 検討の余地がある D (0) 見直しが必要である			
事業実施の効率性	⑤ [アウトソーシングの可能性] 事業の実施にかかる民間活力利用の可能性	A (5) 実施済・できない B (3) 行政主体が望ましい C (1) 検討の余地はある D (0) 十分可能である	B	2.0	・水源かん養林の取得は、行政が主導する必要がある。 ・水源かん養林の管理及び整備はアウトソーシングしている。 ・他の森林保全・整備事業との連携や棲み分けを検討する必要がある。
	⑥ [事業統合・連携・コスト削減] 類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性	A (5) 現状が望ましい・できない B (3) 概ね効率的にできている C (1) 検討の余地がある D (0) 十分可能である			
事業実施の公平性	⑦ [受益者の偏り] 事業の受益者が特定の個人(団体)等に偏りがなく公平性が保たれているか	A (5) 極めて公平性が高い B (3) 概ね保たれている C (1) 偏っている D (0) 公平性を欠いている	A	5.0	
	⑧ [受益者負担の適正化] 事業実施の財源として、受益者負担割合（一般財源負担割合）は妥当か。補助金等交付事業の場合、対象経費は妥当か。	A (5) 適正な負担割合である B (3) 概ね適正な負担割合である C (1) 検討の余地がある D (0) 検討すべきである			
総合点	11.0	総合評価	A 事業継続（総合点が16点以上で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合） B 経費削減に努め事業継続（総合点が12点以上16点未満で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合） ○ C 事業縮小・再構築の検討（総合点が4点以上12点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで2点以下がある場合） D 事業廃止・凍結の検討（総合点が4点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで1点以下がある場合）		

7 2次評価（部局長評価）

評価日（平成 24 年 9 月 13 日）

総合評価	評価理由・今後の方向性等
A 事業継続	一次評価のとおり
B 経費削減に努め事業継続	
○ C 事業縮小・再構築の検討	
D 事業廃止・凍結の検討	

8 特記事項

（12月市議会定例会建設常任委員会 平成24年12月17日）
 ・いのちの水を守るという意味で取得を継続してほしい。
 ・事業を見直すのであればどのように再構築するか市長部局と十分検討してもらいたい。